

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

(1) 安心して産み育てる子育て環境の充実について

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、前回委員会で、当市の現状等を捕捉できる資料を正副で調製すること、それを踏まえ課題の整理を行うことを確認していたが、資料については 7 月 27 日付けで配付をさせていただいた。各委員におかれては、あらかじめ御覧いただいたものと存じる。
- ・ 本日は、まず、この資料について事務局から説明をさせていただくので、その後に、今後の調査を進めて行く上でポイントとすべき当市の課題について、各委員から御発言をいただきたいと思うが、そのような進め方でよろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ では、早速進めてまいりたいと思う。それでは、事務局から資料の説明を願う。

○議会事務局議事調査課主査（三上 敦彦）

- ・ 資料説明：民生常任委員会所管事務調査資料（安心して産み育てる子育て環境の充実について）
（平成 28 年 7 月 27 日付 民生常任委員会正副委員長調製）

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 資料については以上だが、冒頭確認したとおり、これらの内容を踏まえ、今後の調査を進めて行く上でポイントとすべき当市の課題について、何か各委員から御発言いただければと思う。各委員、いかがか。（「がっかりした」の声あり）
- ・ 厳しい現実が数字として皆さんも見てとれたと思うが、そういった意味では、子育て支援という、安心して子育てができる、このテーマというのは、やっぱり大変よいテーマだと実感したところだ。
- ・ いかがか、皆さん、御発言。

○工藤 篤委員

- ・ 子育ての前に婚姻の関係だ。そこにどうアプローチしていくかというのは、どんなものなんだろう。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 今回は「安心して産み育てる」ということで、当然、結婚して、お子さんが生まれるというのが一般的な形だけれども、今回のテーマは「安心して産み育てるという子育て支援」に限定している。余り広がっていってしまうと、調査がなかなか大変になってくるので。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 資料の 3 ページを見ると、「出生数と死亡数の推移」ということで、死亡数が 3,721 名、右肩上がりで上がって行って、出生数が右肩下がりで行って行っている。この開きが結局、人口減につながって行って、転入・転出も確かにあるけれども、それも踏まえても余りにも差がありすぎて、「自然減

への転換」というこの20年前から、子育て支援だとかも見据えた中で、函館市もいろんな手を尽くしてきてはいると思うけれども、それでもなおかつ、どんどんどんどん出生数は下がっていったということは、一体どこに何の問題があるのかということを考えたときに、いろんな要因はあると思うけれども——雇用の問題も含めいろいろあるが、今回、民生常任委員会として、子育て支援ということで、そこに焦点を当てていくとしたならば、この1,632人しか子供が生まれない現状をどう考えるかということだと思う。それを下げないように、もっと経済的に支援をしていったらいいのか、それとも現状維持のためにもっと、子育てしている人たちから声を聞くとか、そういうことをしない限り、いろいろ難しいと思って見ている。

- ・ 要するに、子供の数が減ってるから、妊婦さんの健診も無料にできたりとか予防接種もいろいろやってきたりとか手を尽くしてきているけれども、根本的にどこが問題なのかということを皆さんと一緒に調査したいと思う。私がこの間ずっと質問して思っているのは、やっぱり函館市の子育てしている親たちの現状はどうなのかということだけれども、経済的に本当に大変な状況の人たちが半数以上いると思っている。だから、そういう人たちにどういう手当をしていくのか、現実を考えていかなければいけないんじゃないかと思うが、どうなんだろう。20年、いろいろ子育て支援で頑張ってきたけれども、人口は減っていったというあたりでは、女性がいなくなっているということも関係あるけれども、一概に子育てだけに焦点を絞っても問題は解決しないとは思いますが、そこにあえて今回、調査をするということなので、私は請願書も出していただいて、あの請願書の中身を書いてあることが、今、一番、子育てしている親たちが困っていることだと思っている。現実、声を聞くのも——請願書の紹介議員からしか意見は聞いていないので、声を聞く場面もあってもいいのかなど。そこからスタートしないと、私たちの机上のところでの空回りになってしまうんじゃないかと思う。私がこの資料を見て思った感想だ。

○吉田 崇仁委員

- ・ 私も市戸委員と同じで、函館は全国、全道でも出生率が低い。根本的に一体何が原因なのか、函館だけがどうして出生率が悪いのか、我々議会としては何を支援していくか、ということが大事だと思う。やはり原因をきちんと捉えることが大事じゃないだろうか。机上だけの話ではなくて、一体何が低いのか、そしてまた、お母さん方の悩みってどんなものがあるのか、そういうこともはっきり把握したいと思う。

○工藤 篤委員

- ・ 函館市はここにあるけれども、北斗市と七飯町——いわゆる通勤圏にある、ある意味で生活圏みたいな、そことの関連がどうなっているのか、資料があったら欲しい。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 近隣の。

○工藤 篤委員

- ・ そうそうそう。これはうわさというか、話でしか聞いていないけれども、例えば、北斗市のほうが子育てするのにいろいろな手だてというか、そういうものがある水準にあるから、暮らすなら北斗市で暮らす、子供が小さいときに、という話も聞いているので、もしそれが事実だとするならば、どこ

がいい水準になってるのかということの分析なりをして、それを函館市の子育ての政策に反映させていくということも考えられると思うので、もし事務局で手に入るならお願いしたい。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 今、工藤委員から御発言あったけれども……。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 確かに近隣の子育ての状況を把握するというのも、もちろん私も大事だと思う。ただ、もうはっきりしてるというか、北斗市は子供の医療費が高校生まで無料だ。函館市の方でも、あっちは子供さんの医療費が高校生までって——そういうところ、すごく大きなところだと思う。さっき工藤委員も子育ての前に婚姻のことも問題でなかったって、本当に晩婚化もどんどん、函館市は30.5歳とか29歳で、平均初婚がそのくらいの年齢だということを考えれば、子育ての前にまず結婚のことも大事だっていう、そこも本当にわかる。ただ、そうすると非常に範囲は広くもなるし、この資料を見ても、子供がどんどん減ってるのに、学童だとか保育園とか幼稚園に入ってる人がどんどんふえてて、というのはもう働かざるを得ない、夫婦で共働きをしていかないと子育てができないというのが、私は函館市の現状なんじゃないかとも思う。じゃあ、雇用の問題もってなると、今度、雇用はやっぱり民生ではなく、経済建設の所管だ。だから非常に、子育ての環境というか、この支援の体制は本当に民生だけじゃなくて、総務でも、経済建設でも、いろんなところに範囲は広いというのはあるけれども、でもやっぱりどこかから取りかかっていかなきゃいけないという意味では、私はやっぱり民生の所管のところで、できることはしっかりやっていったほうがいいと思っている。
- ・ そして、資料の5ページだけれども、「妊娠から子育てまで切れ目のない支援」というのが出ている。非常に、これを見ると函館市は妊娠から子育てまで切れ目のない支援をしてるというふうにも見えるけれども、見えるんだけど結局今の現状、どんどんどんどん出生率が減ってきてるということは、はっきり言って、函館市のこの支援が、きちんと今の、これから子供を産み育てようと思ってる方々にとっては決していい、利用のしやすいものでないからこそ、出生率もどんどん下がってきてるのかなと思う。だから、この妊娠から子育ての本当に切れ目のない支援が、先ほど市戸委員もおっしゃってたけれども、今、この函館で子育てする親御さんたちにとって、本当に利用のしやすいものになっているのかどうなのか。行政はちゃんと切れ目のない支援をやってるというけれども、本当にそれが切れ目なく利用しやすいものになっているのかどうなのか。そこはやっぱり、私たちは私たちで、現在の子育てをしている親御さんたちにしっかりと御意見を聞く場があってもいいと思うし、その中で本当に利用しやすい、いいものに充実していくっていうのが、私はすごい大事じゃないかと思う。
- ・ だからぜひ、切れ目のない支援というのが本当に切れ目なく利用しやすくなってるのか——下の四角いっちゃいところで、「市民への情報発信」と書いているけれども、本当に情報が発信されてるのかどうなのか。たまたま私、この間、全然知らない、2歳のお子さんを持つ親御さんと話をすることがあって、ちょっと聞いたら、「函館は子育てのサービスとか何にもないですよ」って言われた。こんなにいろんなことをしてるのになんて私は思ったのに、何にもないと言われちゃって、余り情報が伝わってないのかなと、すごくショックというか、思ったこともあったし、だからそういう意味で、ぜひぜひしっかりと今の方々に意見を聞いたり、本当に切れ目のない支援になるように、私たちから

行政に対して提言なり何なりをしていくというのが、すごく大事なかなと思う。

○松宮 健治委員

- ・ 今、各委員の皆さんの意見を聞いて、僕自身は関心のあることだったけれども、改めてこの3ページの出生等のデータを見たときに、死亡される方というのはこの35年間で1,500人くらいしかふえてないけれども、それ以上に実は、生まれるお子さんが2,800人くらい減ってると。そういう意味では、出生率のほうはかなり下がり、これは改めて、こんなに厳しい数字だと認識した次第だ。
- ・ その下の、どうして子供を持たないのかというのは、未婚というのが大きいから、結婚のことをどこかの視点でやらなくちゃいけないかなと改めて思ったが、とはいうものの、経済的負担というのは結構あるのかなと。これはやっぱり未婚につながってくと思うし、子供は1人でいい——本当は2人目、3人目を皆さん欲しいんだけど、結果的に1人、場合によっては2人でとどめてしまうということもあると思って、ただ、今、斉藤委員がおっしゃったように、この5ページ目を見たときに、実は函館市としては妊娠から子育てまで切れ目のない支援をやっていると。僕自身も改めてこうやって一覽にして見て、こんなにやっていると。僕も子供が3人いるけれども、うちはどうだったのかと思いながら見てたけれども、意外と若い方々は知ってるようで知らないし、やっぱり生活に追われると、ここまでなかなか、じゃあネットで見てメールでやってって、よほど意識が高くないとできないのかと思った。
- ・ 自分自身、民生常任委員として、マザーズ・サポート・ステーション、言葉は知っていたけれども、去年の10月から立ち上がって、1年近くなるが、それなりの課題もあったり成果もあると思うので、改めてまず、私たち民生常任委員会のほうから、この函館市の子育て支援ということをしっかり学んだほうがいいのかなと改めて思った。そうするといろんな折に、市民相談を受けたときに、実はこういうこともやってる、ああいうこともやってるとやって、1対1で市民の方々に伝えていかないと、なかなかいいものは伝わっていかないのかと思っていて、ぜひこのマザーズ・サポート・ステーションの視察をする機会があれば、しっかり勉強したいと思った。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 今、具体的にマザーズ・サポート・ステーションの視察をしてみてもどうかという話もあった。そのほかに。

○能登谷 公委員

- ・ やっぱり見てるといろいろと原因があって、民生だけの問題ではないと言うけれども、函館市は離婚率もものすごく高い。だから結局、結婚して、子供を産んで、離婚して、生活保護じゃないけれども、さっき市戸委員が言ってたけれども、いっぱいいっぱいの中で子育てしてるという親御さんが、特に若い方に多いんじゃないかと。
- ・ じゃあ、それにどのくらいのサポートができるのかどうか。恐らく生活することでいっぱいいっぱい、保育園へ入れるとか何入れるとかっていうことも頭に入ってこないというか、お金がかかるといことしか頭にないということで、やっぱり子供を産むにも育てるにも、お金という部分があるから、函館市でどのくらいのサポート——例えば、他都市なんかでいけば3人目からは出産祝い金が出るとか、そういう形の中で子供を産み育てていくような環境というのを整えていかなきゃならない。

- ・ 今、はっきり言って、保育園はもう全員が全員入れるような、待機というのはほとんどないという状態の中で、じゃあ全員が全員入ってるかといったら入ってない。例えば、請願が来たように保育園は高いと。じゃあ保育料って本当に他都市から比べて高いのかどうか。いろんな部分の中で、細分化してやってきて、そして本当に他都市と比べて高いのか安いのか。だから、そういう部分の中で比較するもの。
- ・ 例えば、さっき工藤委員が、近隣の実態と。規模が違うと思う。5万人しかなくて、子供がそのうちの何%か。函館は今26万人いるけれども、じゃあ子供がどのくらいいるのかということを考えれば、それだけの手当を例えばしたとすれば、どれだけのお金がかかるんだということの試算もしていくべきだろうし、高校までもし持ったらどのくらいかかるんだということも考えていかなきゃだめだ。
- ・ そして、あと、うちの所管である病院局なんかも、七飯町にしても北斗市にしても自前のものを持ってない。全部、函館市に来るわけだ。その、持ってない部分の比較というのも、全然違うと思う。自分のところで営業してて函館市みたいにやってるのと、全然持たないで全部こっちによいしょするのは全然違うと思う。そういう部分の違いなんかも、例えばもしそういう部分を——できないとは思いますが、例えば北斗市でもし病院を持って、そうしたら本当にこういうことができるのかどうか。そういうこともやっぱり比較検討することも必要じゃないかと思う。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ ほかに、御発言ないか。

○福島 恭二委員

- ・ まず、市長の政策として、本気になってこの課題に取り組むという姿勢になってもらわないと、なかなか面倒だと思う。常に言われることは、行政は公平公正だと言うんだけど、その中でも経済問題を含めて、さまざまな分野があって、仕事があるんだけど、この問題についてはやっぱりこれに特化するような、よそのものよりはここを最重点に取り組むという姿勢がまずなければ、みんな中途半端になっちゃうと思う。あれもこれもやるんだけど、例えば高校生まで医療費無料化するのはいいんだけど、中学生で終わってみたり、小学生で終わってみたりと。そういうことで一貫性がないわけだ。小学生より中学生、中学生より高校生まであったほうがよりいいと思うから、そこに魅力を感じる人もいるだろう。だから、そういうことを徹底して、やっぱり子供に投資をするという視点でもって取り組むようなことをしなければ、なかなか——あっちもやれば、こっちもやれば、子供だけに特化するわけにいかない、経済問題もやらねば医療問題もやらねば、社会保障問題もやらねばないとか、そういうふうになってしまうから、中途半端なんだ、みんな。
- ・ この間ちょっとテレビで見たんだけど、我々の行った加古川市の隣の明石市では、この問題について特化して、重点政策として取り組んだらしい。そうするとどんどん人口が増えてるんだ、今。ここに特化して取り組もうという姿勢で取り組んだらしい。その結果として、どんどん人口がふえてる。それは、そういう政策をとったということなんだ。ということを考えれば、やっぱりこの問題について中途半端じゃだめだと思う。そっちのほうの工作在二、三年遅れてもいいから、ここにまず特化しようという姿勢で取り組まない限りは、なかなか難しいと思う。だから、今、これを議論して、まとめようとするのであれば、そういう方向にすべきだと、ここで各党派、意思統一して、市長に提

言するということでなければ、なかなか難しい問題だと思う。と思うので、そういう方向で、できれば進めていきたいと思っている。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 金澤委員はよろしいか。

○金澤 浩幸委員

- ・ じゃあ、せっかくなので。皆さんおっしゃったとおりで、何かをやればすぐ結果が出て、函館の出生率が上がるなんてことはあり得ないと思っている。今、明石市の話が出たけれども、あそこの近くというのは、後背の都市がいっぱいあって、その中でどこに住もうかって比較で来ていただける方もいらっしやると思うし、じゃあ、函館市を見たときに、北斗市、七飯町、あるいは渡島、檜山、そこから来ていただいた方がいたから人口がふえてきたのであって、後背の地域の皆さんが子供を産まなくなってきたから、函館市の人口がふえていくなんてことはもうあり得ないと、私は思っている。
- ・ じゃあ、民生としてどうするんだとなると、やはりどこかで特化して、妊娠から子育てまで切れ目のない支援なら支援の、ここの部分に特化して進めるのしかないのかなと思っている。どうやって進めるんだとなると、さっき言った、子育て中のお母さん、お父さんから話を聞くのも一つだろうし、あるいはここに出てるマザーズ・サポート・ステーションと子育てサロン、ここが今、函館でやっているとことだから、まずはそこを見に行つて、現状どんなことをやってて、どういう方たちが相談に来てるのかを調べて——それを調べておいて、ほかのまちというのはどういうふうに進めてるのかというのを見に行くような、そんなスタイルにしかないのかなと思っている。
- ・ 本当に、当然、出生率を上げるんだったら、まず結婚してもらわなきゃならないだろうし、なぜ結婚しないのかとなると、ここに書いてるように、子供を持ってない理由は未婚だ、まず。その場合、結婚しない理由は経済的理由なんだろうから。じゃあ、函館にある程度の給料が稼げて、将来性もあって、定年まで勤めていられるような大企業が何社もあれば、ある程度は結婚もふえてくるじゃないとか、そんなところまで行っちゃうから、ただそれを民生でやろうとしても無理なんだろうから、民生でやるのはこの最後の5ページのこの部分に特化してやるしかないのかなと思う。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 先ほど、工藤委員から他都市のということで、とりあえず今の段階では函館市に特化して調査していくということで、よろしいだろうか。

○工藤 篤委員

- ・ 参考として、ここのエリアとして。函館圏と言われるところで、どうなってるかという視点も必要なんではないかと。（「数字はあってもいい」の声あり）必要なんでないかという気はする。それと同時にほかとの兼ね合いで、今、金澤委員がおっしゃったように、どういうことをやればとりあえず効果が出るのかというような、その政策なり、比較なんかもできるだろうし、情報はいっぱいあったほうが良いような気がする。（「数字は出るんじゃないか」の声あり）

○委員長（池亀 睦子）

- ・ じゃあ、きょう出した資料の中の数字的なことを、北斗市と七飯町はどうなっているのかということを知りたいと。これは皆さんも同じだろうか。（「見たい」「3ページにある分くらいはあ

ってもいいんじゃないか」の声あり)

- ・ わかった。これは数値的なものなので。
- ・ あと、全員から御発言いただいた。最初にテーマを決めていくときも、皆さんで若干の議論をしてきたけれども、民生所管の範囲内でしっかり調査をしていくということをまず確認をさせていただくことと、テーマが「安心して産み育てる子育て環境の充実」ということを掲げているので、いろいろ思いはあるけれども、やはり今、産まれて、育てている子育て世代をどう支援できるのかというところにしっかり着目しながら、調査を進めていきたいと思うが、この点についてはよろしいか。(「はい」の声あり)
- ・ そして、具体的なことがきょう2点出て、斉藤委員、市戸委員から、実際に子育てをしていく上で、どういうところに壁を感じてるのかとか、すごく困ってるのか、そういう子育て世代の声を聞く機会があってもいいんじゃないかということで一つ出た。
- ・ また、もう一つは、この5ページの、今、函館市が取り組んでいて、昨年10月から新たにマザーズ・サポート・ステーションということで、ワンストップではないけれども、かなり包括的にブースが設けられたということがあって、果たしてこういう体制が有効になってるのかどうかという、そういう意味で視察をしてみてもどうかと、そういう、松宮委員、金澤委員から、お話があった。
- ・ この2点が今、具体的に挙がったので、これについてはどうだろう、各委員の皆様、まずこの2点をしっかり、函館市の状況をしっかり、行政視察をしていく上でも、しっかりつかむという意味で、2点に取り組むということでどうか。(「はい」の声あり)
- ・ いいか。わかった。じゃあ、事務局と相談して、できればこのどちらかを、例えばマザーズ・サポート・ステーションは、相手のあることだけれども、連絡をとって見て、できれば9月の議会前に一今月中になるが、取り急ぎ視察という形をとりたいと思うが、どうか。(「はい」の声あり)
- ・ じゃあ、日にち等に関しては、急なことなので正副に一任していただき、もしかしたら日程が合わない方も出るかと思うが、それも御了承いただけるだろうか。(「はい」の声あり)
- ・ じゃあ、マザーズ・サポート・ステーションと連携をとって、取り急ぎ準備を進めたいと思うので、よろしくお願いします。
- ・ あと1点……。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 子育てサロンという話も、何かさっき出なかったか。

○委員長(池亀 睦子)

- ・ そうだったか。失礼した。
- ・ 子育てサロンも視察したらどうかということだが、皆さん希望されるか。(「多いほうがいい」の声あり)
- ・ わかった。じゃあ2カ所をまず、視察するという事でよろしいか。(「はい」の声あり)
- ・ じゃあ早急に、これは進めさせていただく。
- ・ また、子育てをしている保護者の声を聞くということについては、また正副で検討し、また皆様に御相談申し上げたいと思うので、よろしくお願いします。

- ・ そのほかに、御発言あるか。（「なし」の声あり）
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ 散会宣告

午後 1 時41分散会